

2つの子宮けいがんワクチンの違い

子宮けいがんワクチンには2つのメーカーから2種類のワクチンが出されています。

子宮けいがんはヒトパピローマウイルス(HPV)が原因で、主に HPV16 型と 18 型で子宮けいがん全体のおよそ 7~8 割を占めます。

サーバリックスとガーダシル

サーバリックスとガーダシルともに HPV16 型と 18 型が入っています。

ガーダシルはさらに性病の尖圭コンジローマの原因である HPV6 型と 11 型が入り 4 種類の HPV に対して効果があります。

	サーバリックス	ガーダシル
HPVの型	2価(16,18 型)	4価(6,11,16,18 型)
子宮けいがん予防	○	○
尖圭コンジローマ予防	×	○
接種回数	3 回	3 回
接種間隔	0, 1, 6ヶ月	0, 2, 6ヶ月

抗体の上がり方はサーバリックスの方がいい。

子宮けいがんの原因の HPV16 型と 18 型に対する抗体の上がり方はサーバリックスの方が優れています。ある程度上がれば感染予防はできるのですが、上がりが大きいと持続も長いことが期待できます。

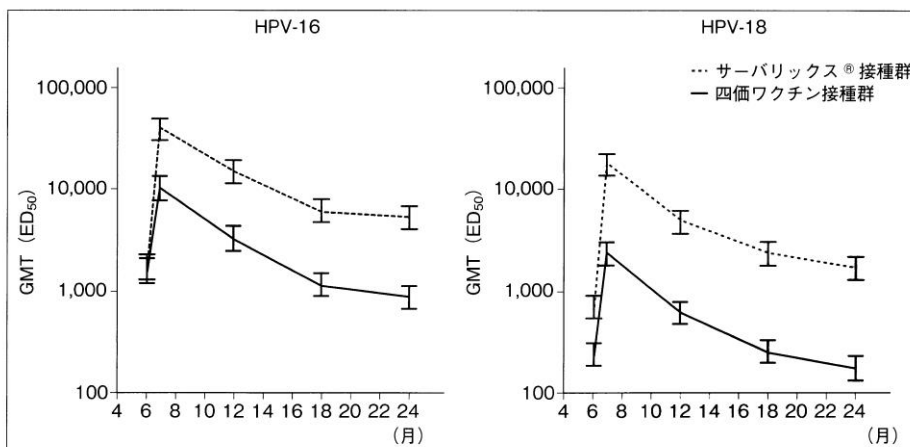


図8 HPV-010 試験 (24 カ月) における 3 回目接種後 18 カ月間のサーバリックス®および四価ワクチンの GMT の推移
GMT: 幾何平均抗体価

※四価ワクチンはガーダシルの事です。抗体の上がり方はサーバリックスの方がピーク時に約 5 倍、24 ヶ月後には約 10 倍の差があります。

結局どちらがいいか？

① 子宮けいがんだけをしっかり抑えたい→サーバリックス

② 尖圭コンジローマも合わせて防ぎたい→ガーダシル

※同じワクチン3回接種します。途中で替えることはできません。